

去る、12月10日（火）に本校と分教室で公開授業を行いました。福祉関係の事業に従事される方や地域の学校の先生方など、60名を超える方々に参観いただきました。参観していただいた皆様、ありがとうございました。

当日、本校の学校概要について紹介させていただきました資料を掲載します。特別支援教育に対する私たちの思いを紹介させていただいておりますので、ご一読いただければ幸いです。

2024年12月10日(火)

三雲養護学校公開授業

滋賀県立三雲養護学校

本日の日程

10:00～10:20 オリエンテーション
学校長挨拶
学校紹介・研究について など

10:20～11:00 ポスター見学および移動

11:00～11:45 公開授業

＊授業終了後、お帰りの際には、受付にて名札をご返却ください。

オリエンテーションの内容について

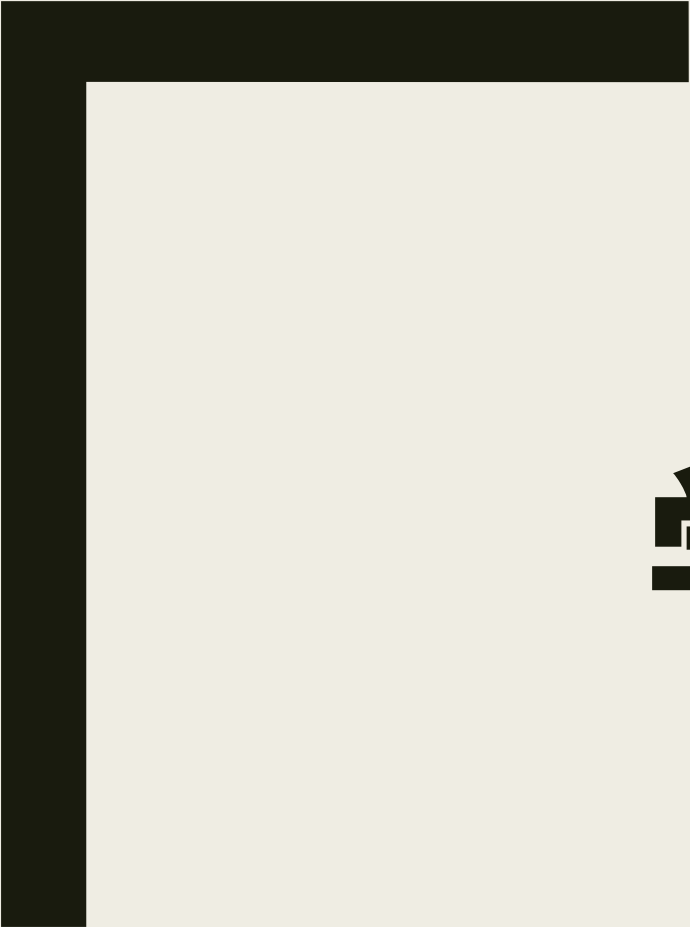
① 学校長挨拶

② 学校紹介

③ 特別支援学校の教師の専門性について

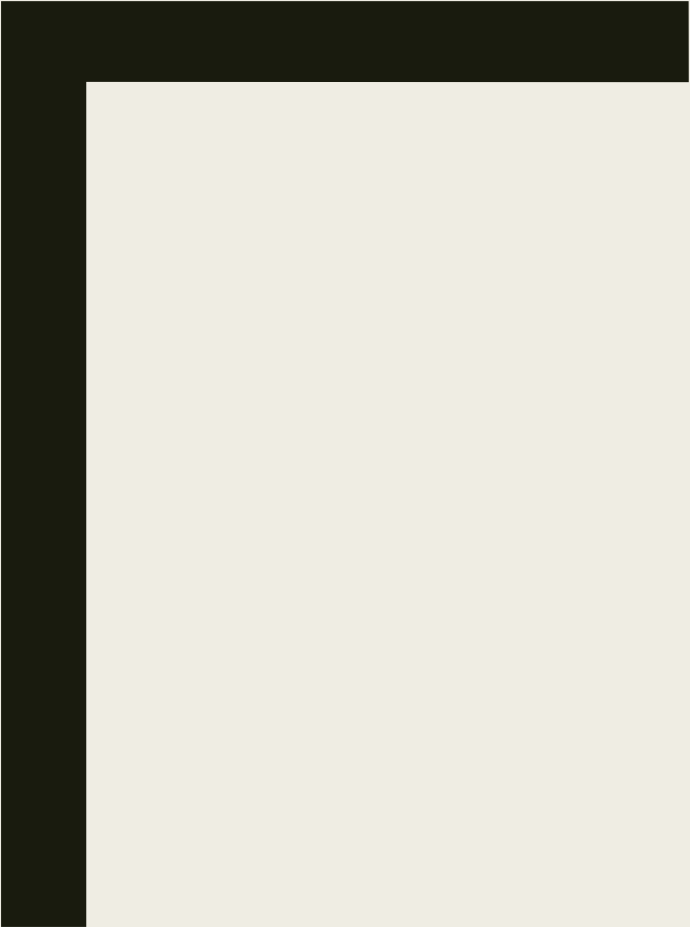
④ 三雲養護学校の研究について

⑤ さいごに



学校長挨拶





学校紹介



三雲養護学校について

知的障害、または肢体不自由がある児童生徒が、個に応じた特別な支援と配慮を受けながら学べる学校

◎ 本 校 { 小学部（低学年）（高学年）
 中学部
 高等部

◎ 石部分教室

平成25年 石部高等学校内に開設した高等部の分教室

（草津・野洲・三雲養護学校のエリアと日野町が通学区域）

◎ 紫香楽校舎 国立病院機構 紫香楽病院に併設

児童生徒数

- ・小学部 低学年(48)名、高学年(44)名
- ・中学部 (66)名
- ・高等部 (83)名
- ・石部分教室 (58)名
- ・紫香楽校舎 (13)名

計312名(5月1日付)

小学部・中学部・本校高等部は・・・

- ・教育課題に応じた集団編成
- ・1学級の人数は4～9名程度
- ・複数担任（2～3名）
- ・体験的な学習を中心とした学習活動
- ・障害の程度に応じた進路実現をめざす（施設入所から就職まで）



石部分教室については・・・

★定員あり

- ・令和6年度は32名

★対象

- ・草津・野洲・三雲養護学校が通学区域(日野町も)
- ・知的発達の遅滞が中度または軽度であり、日常生活および社会生活への適応の困難さが軽度である者

★授業

- ・高等学校とほぼ同じ日課で授業は1コマ50分



石部分教室も三雲養護学校の高等部

三雲養護学校 高等部

本 校

分教室

生活自立コース

社会的自立コース

職業的自立コース

高等学校に準ずる
教育課程コース
(肢体不自由)

職業コース

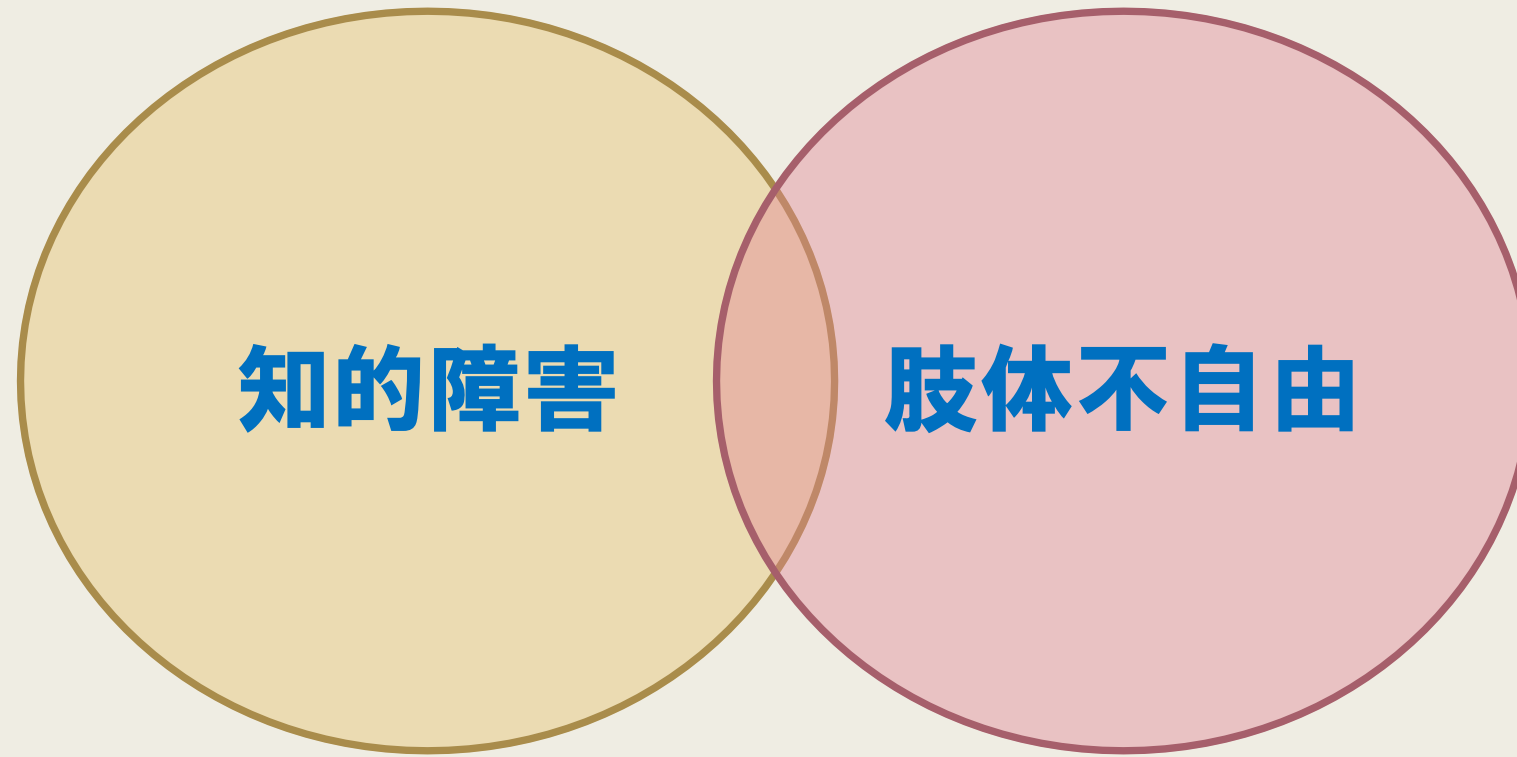
本校高等部と石部分教室の違い・・・

	集団編成	進路	日課	通学
本校高等部	学年別編成 ではない (教育課題別)	生徒の実態に応じた 社会的自立を 目指す	小中学部と ほぼ同じ日課	スクールバスあり
石部分教室	学年別編成	生徒の実態を 考慮しながら <u>できる限り</u> 職業的自立を 目指す	始業終了時刻は 異なるが 高等学校とほぼ 同じ日課(校時) 50分授業	石部駅発 チャーターバス あり (自主通学へ移行)

特別支援学校の教師の 専門性について

前提として

本校に通ってくる児童生徒の主たる障害は・・・



肢体不自由とは

身体の動きに関する器官が、病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態をいいます。

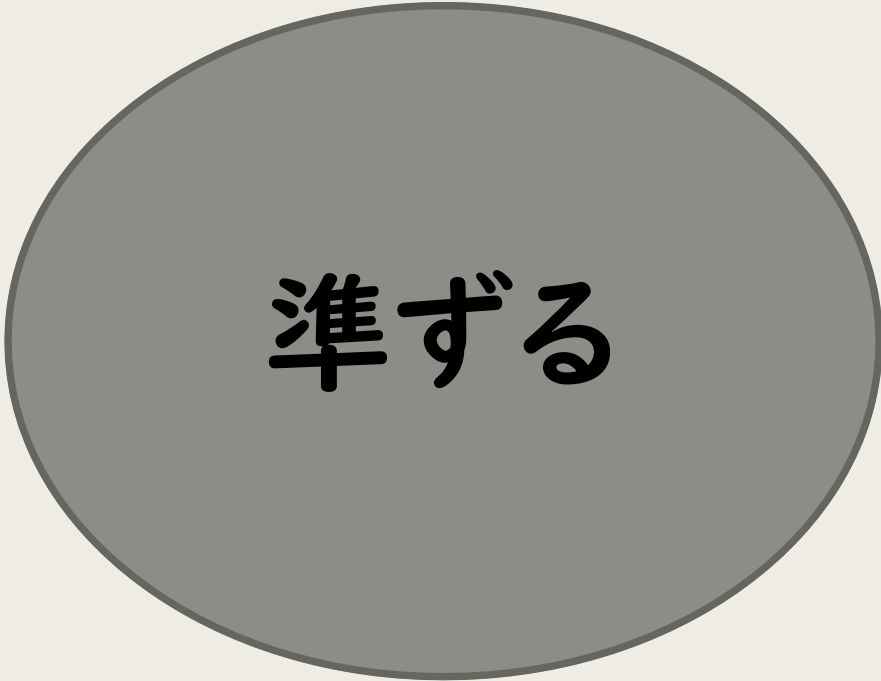
【文部科学省のHPより】

知的な遅れを伴わない場合は…

それぞれ小学校、中学校、高等学校の教育課程に**準ずる教育**を行い、小学校、中学校又は高等学校の教育目標の達成に努めるとともに、**障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う**ことを目標としています。

【文部科学省のHPより】

準ずる教育



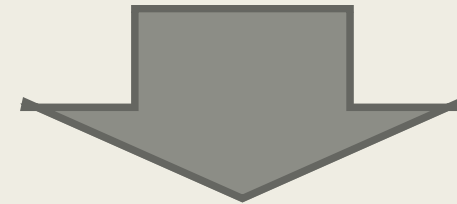
準ずる

「準」を使った言葉を思い浮かべると・・・

「準決勝」「準優勝」「英検準2級」

思い浮かべるイメージは・・・

「一つ下」や「劣化版」といった印象



実際は・・・

ある基準のものと同様に考える
⇒「同じ」ということ

肢体不自由のある児童生徒の教育を考える

★肢体不自由を2つの側面からとらえる

- ① 肢体の不自由さ ⇒ 身体的な不自由さ
- ② 「したい」の不自由さ ⇒ 「したい」のにできない不自由さ

例えば…今回の公開授業に参加することを一つとってみても…

「したい」のにできない、その“つらさ”にまずは共感すること。
児童生徒の「したい」という意欲をもう一度奮い立たせること。
「したい」を実現させる主体へと児童生徒が育っていくように。

特別支援学校の教師の専門性

知的障害とは

一般に、同年齢の子どもと比べて、「認知や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態とされています。

また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われています。

【文部科学省のHPより】

知的障害とは

★知的障害のある児童生徒の学習上の特性

- ①学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、
実際の生活の場面の中で生かすことが難しい。
- ②成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に
取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。



抽象的な内容の指導よりも、実際の生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的である。

【学習指導要領解説より】

知的障害のある児童生徒の教育を考える

★授業づくりで大切なのは・・・

・児童生徒を出発点にすること

⇒児童生徒の抱える生きづらさへの共感から。

・自然や社会、価値ある文化との出会いを作ること

⇒新しいことを知ったりわかるようになったりすることの喜び、
学ぶことのたのしさに気づき、意欲をもって学び続ける
主体へと児童生徒が育っていくように。

特別支援学校の教師の専門性

知的障害のある児童生徒の教育を考える

★何より・・・

- ・児童生徒と教師とが、対話を通して、両者のねがいをすり合わせながら共に授業をつくること

◎授業の主体



◎実践の主体



教育実践



三雲養護学校の 研究について



専門性を高めるための研究活動として

2024年度の研究テーマ

一人ひとりが自分らしく豊かに生きることをめざした
教育実践を考える
～小・中・高一貫した教育課程づくりに向けて～

★主な取組

- ①「キャリア教育」について学校全体で理解を深める。
- ②学部毎に小グループを作り豊かに生きることをめざした教育実践の研究を進める（通称：グループ研）。

夏季の全校研で「キャリア教育」について学ぶ

中央教育審議会 2011年1月31日付

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」

「キャリア教育」	「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」
「キャリア」	「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」

夏季の全校研で「キャリア教育」について学ぶ

アンケート:「キャリア教育」ときいて思い浮かべるもの

以下の選択肢から3つまで

- | | |
|----------|-----------|
| ① 働く力 | ⑨ 自己肯定感 |
| ② 生きる力 | ⑩ 自己有用感 |
| ③ 暮らす力 | ⑪ 自己理解 |
| ④ 余暇 | ⑫ 他者理解 |
| ⑤ 進路（指導） | ⑬ 他者との関わり |
| ⑥ 職業教育 | ⑭ 健康 |
| ⑦ 就労訓練 | ⑮ 環境への順応 |
| ⑧ 自立 | ⑯ その他 |

夏季の全校研で「キャリア教育」について学ぶ

アンケート：「キャリア教育」ときいて思い浮かべるもの

年度はじめのアンケート結果

トップ5

- 1位：生きる力
- 2位：働く力
- 3位：進路
- 4位：自立
- 5位：職業教育

進路や働くことにつながる項目が
票を集める結果に

研修後のアンケート結果

トップ5

- 1位：生きる力
- 2位：自立
- 3位：余暇
- 4位：他者との関わり
- 5位：自己理解

進路や働くことにつながる項目が
票を減らす結果に

「キャリア教育」について考える

就学前

学校教育
12年間

卒業後
約80年

人生100年時代



卒業時の進路に注目すると・・・

★本校の生徒のほとんどが「働く」という選択

＊知的障害特別支援学校の高等部卒業時の進路

⇒進学は1%未満で、「働く」という選択が当たり前

＊障害のない生徒の高等学校卒業時の進路

⇒進学率84% 「働く」という選択は、様々な進路の中の一つ

卒業時の進路が
事前アンケートに
色濃く反映されて
いたと考えられる。

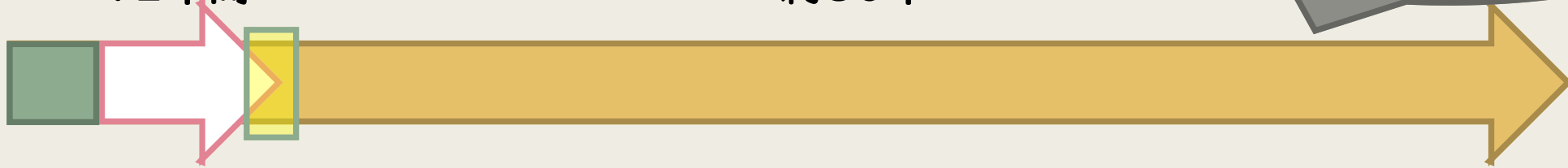
「キャリア教育」について考える

就学前

学校教育
12年間

卒業後
約80年

人生100年時代



研修で学んだことは・・・

★「キャリア教育」とは、広い意味での「生き方教育」である
こと。「働く」ことは人生の一部分でしかないということ。

⇒高等部卒業時の進路決定にばかり目を向けるのではなく、
広く人生を捉えた生き方教育こそ「キャリア教育」であり、
これこそ全校の研究テーマに込めた思い。

あらためて2024年度の研究テーマ

一人ひとりが自分らしく豊かに生きることをめざした
教育実践を考える
～小・中・高一貫した教育課程づくりに向けて～

★研究テーマに即した授業実践および研究を進めてきたのが

⇒【グループ研】

その成果として…

- ・体育館に貼られているポスター
- ・本日、参観していただく授業

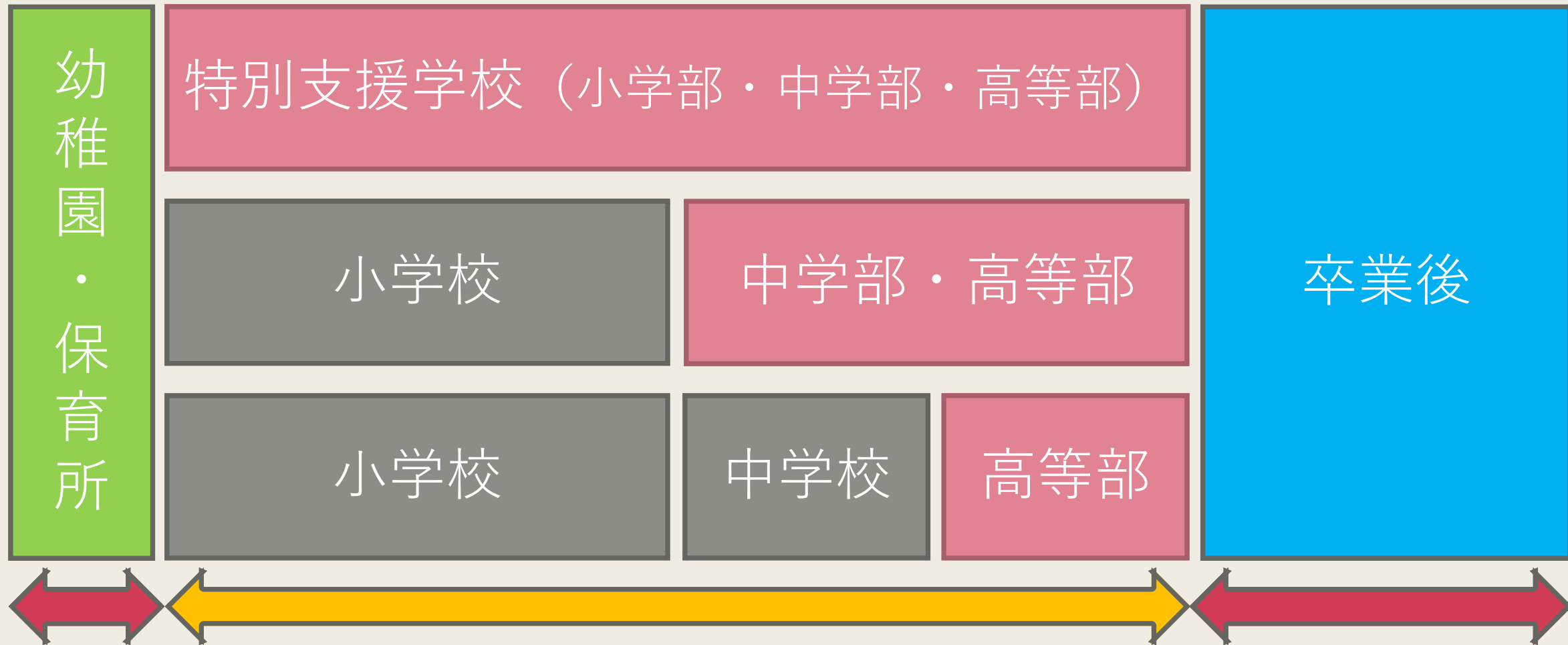
ポスター 一覧

※公開授業一覧は、
配布資料をご確認
ください。

小学部 低学年	子どもたちがやりといえる授業づくりや授業展開とは	1.2.3組
	子どもが興味・関心をもてる授業づくり～ふれるえがくつくるの実践から考える	4.8組
	一人ひとりが楽しめる授業とは ～『みるきくはなす』の実践を通して	5.6組
	子どもたちが夢中になれる音楽の授業とは～子どもたちに手渡したいもの～	7.9組
小学部 高学年	幅広い実態の児童がいる中で、算数の授業を通してつきたい力とは	2.3組
	お話しを通してやりとりを広げよう！（国語・算数／ことば・かず）	4.6組
	ことば・かずの授業実践を通して子どもたちにつけてほしい力とは	1.5.7組
中学部	“できた”“わかった”“もっとやりたい”を実感できる授業づくり ～コミュニケーションを高めながら～（国語）	教育課程Ⅰ
	中学部Ⅱグループの“理科／社会”のカリキュラムづくりに向けて ～中学部3・4・6・7組の社会の実践を中心にして～	教育課程Ⅱ
	中学部Ⅲグループの進路学習について考えよう	教育課程Ⅲ
高等部	人生を豊かにする「作業学習」について考える ～Ⅰコースの生徒の実践を振り返って検証する～	生活自立 コース
	学年別進路学習の在り方	社会的自立 コース
	高等部職業的自立コースにおける教科学習の在り方について ～シラバスづくりに焦点を当てて～	職業的自立 コース
分教室	生徒が主体的に学習に取り組める授業づくり～作業学習の実践を通して～	1年 園芸
	分教室での「情報」の授業づくり	1.2.3年 情報
紫香楽 校舎	紫香楽校舎の子どもたちが豊かに生きる力を育むための教育課程について ～小・中・高の一貫した教育課程づくりに向けて～	校舎全体

さいごに

本校に通う子どもたちの12年間は様々



児童生徒の丸ごとを捉えるためには、今日来ていただいている、地域の学校、就学前、卒業後、そして放課後等のサービスの方々との連携が不可欠。

参観していただくにあたって

- ◆名札を御着用ください。
- ◆公開授業は一覧表を御覧になって参観ください。
- ◆原則、廊下からの参観をお願いします。
- ◆公開されている教室以外への立ち入りは御遠慮ください。
- ◆貴重品は各自で管理をお願いします。
- ◆校内における写真・ビデオ撮影は御遠慮願います。
- ◆携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしておいてください。
- ◆トイレは、職員用トイレ(1棟 受付右手にあります)をお使いください。
- ◆敷地内は全面禁煙です。御協力をお願いします。
- ◆退出される際は、受付名簿に記入していただき、名札を返却ください。
- ◆分教室への移動の際は、名札を持って行ってください。

参観いただくにあたって

アンケートにご協力をお願いします。

- ・気づかれた点や感じられたこと、考えられたことをお聞かせください。
- ・本校の先生たちが、明日からまた頑張ろうと思える、あたたかいお言葉やご感想をいただけますと幸いです。

<研究部>

◎基本方針

長期的な視点を持ち、すべての教育活動の基盤となる確かな児童生徒理解を深められるように校内研究を企画・運営し、教職員の授業力・指導力の向上を目指す。加えて、各学部で大切にされている実践が、学部を超えてどのように繋がっていくのか、実践的に検討を重ね12年間の一貫した教育課程の整理に努める。

◎校内研究計画

(1) 研究テーマ

「一人ひとりが自分らしく豊かに生きることをめざした教育実践を考える
～小・中・高一貫した教育課程づくりに向けて～」

(2) 研究方法

今年度（短期目標）	来年度以降（長期目標）
・キャリア教育についての聞き取り調査 ・キャリア教育に関する全校研修 ・グループでの実践的授業検討[グループ研] ⇒校内縦割り授業交流会 ⇒公開授業研	・それぞれの学部で大切にしていることのつながりを実践的に検討。 ⇒学部を超えたケース検討会・授業検討会 ・「自分らしく豊かに生きる」へとつながる、小・中・高一貫した教育課程の検討と整理。

*短期的な目標と長期的な目標を設定し数年で取り組む。

◎自立活動指導の充実に向けて

- (1) 個々のニーズに応じた自立活動の指導に取り組むために、授業実践と研究・研修活動を推進する。
- (2) 学校教育目標及び、各学部教育目標に沿って自立活動を推進する。
 - ・ 自立活動の指導計画に関すること。
 - ・ 関係諸機関との連携に関すること。

◎主な業務

- ・ 上記の研究テーマに基づいた校内研究の企画・実施
- ・ 特別支援教育に関わる研修会の情報発信
- ・ 授業の質の向上に関わる情報発信・啓発活動
- ・ 全校研修会の企画・実施